

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂版 家庭基礎 持続可能な未来をつくる』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①広い知識と科学的思考に裏付けられ、事に臨んで適切な判断ができる人間に育てる。 ②強靱な体力と不屈の忍耐力を持ち、信念を持って行動するたくましい人間に育てる。 ③相手の立場に立って物事を考え、人の心を汲み取って思いやる温かい人間に育てる。
カリキュラム・ポリシー	①1・2学年では全員が共通の科目を学び、広く基礎的な知識・技能を身につけます。 ②3学年では選択科目を多く設置し、個々の興味・関心を進路目標に合わせ科目を選択し学びます。 ③授業第一主義とし、主体的・対話的で深い学びの授業、ICTを積極的に活用しわかりやすい授業を実践します。 ④長岡市との「探究学習の推進に関する連携協定」のもと、地域の大学、企業、行政と連携し、地域資源を活用した生徒主体の探究活動を実践します。 ⑤学校行事や部活動では、安全安心な環境を整備し、生徒の主体的な活動を支援します。

2 学習目標

- 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
 - (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
 - (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3 指導の重点

- 大学進学希望者が多く早期の自立が求められていること、18歳成人を間近に控えていることから、
- ① 自己の成長を振り返りながら家族や家庭生活について理解を深め、自立した生活を営むために必要な知識と技術の習得を目指します。
 - ② 卒業後の生活を具体的に思い描きながら、生活課題に主体的に取り組む態度を育てます。
 - ③ 消費行動における意思決定の重要性について理解を深め、必要な情報の収集・整理ができることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な、人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基本的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 実習記録および作品の内容 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 実習記録および作品の内容 ・ 授業中の発言、発表や取組の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や取組の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 5	家庭科を学ぶにあたって 1 章 これからの生き方と家族	1 1 2	教科書 ライフサイクルゲームⅢ (第一生命)	・「家庭基礎」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集、レポートの書き方など学習の方法、評価の方法を理解する。 ・これからの人生で起こりえるライフイベントを考え、発達課題や経済設計について考える。 ・ 演習 (高校卒業までの教育費、進学費用のシミュレーション) ・自立の観点から自分らしい生き方について考える。 ・自分の目指すライフスタイルを実現するために、職業選択などの具体的な事例を取り上げたりして考察し、生活設計を工夫する。 ・自立した生活を営むために、生涯を見通しながら、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任を持って行動することが重要であることへの理解を深める。 ・ 出前授業 (ライフサイクルゲーム) ・現代の家族・家庭の課題を、諸制度などの社会環境の変化と関連付けて理解する。 ・ 演習 (民法改正に向けて)	a b c	ワークシート レポート

	6	2 章 次世代をはぐくむ	3	教科書 DVD（うまれる）	・母体と子どもの健康には、家族、特に父親の協力と、それを支える社会のしくみが必要であることを知る。 ・身体の発育や運動機能などの発達の概要を理解できるようにする。 ・子どもの人間形成において保育や人とのかかわりがいかに重要であるかを考える。 ・演習（幼児期の影響を探る） ・子どもの生活習慣の形成や健康管理、安全対策の重要性について学ぶ。 ・遊びが子どもの生活において重要で、遊びを通して様々な心身の発達が促されることを理解できるようにする。	a b c	ワークシート レポート
		3 章 充実した生涯へ 4 章 とともに生きる	2	教科書	・高齢者の心身の変化と生活について学習し、高齢者を支えるための心持について考える。 ・社会的制度、社会福祉の基本的な理念、ともに支え合って生きる社会の考え方について理解する。	a b c	定期考査
	7 8 9 10	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 第 5 章 食生活をつくる	2 1 6	教科書 動画（充実した生活は食事から） DVD（今日から実践！食中毒予防）	・問題解決学習としてのホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を知り、家庭科の学習を通して得た知識・技能を活かし、家庭や地域の課題を見いだし解決する。 ・食えることと健康のかかわり、現代の食生活の変化と問題点について学ぶ。 ・健康な生活を送るうえで必要な栄養素とそのおもな働きについて理解する。 ・食品添加物、輸入食品など食の安全に関わる問題について学習し、食品の品質表示の見方や選択する際のポイントを学ぶ。 ・食中毒の種類や予防法等を理解し、衛生的な調理や食事管理について学ぶ。 ・食事摂取基準を満たすためには、どの食品をどれだけ食べればよいかというめやすを示した「食品群」について学習する。 ・「食品群別摂取量のめやす」を活用できるようにする。 ・食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。 ・調理実習（和食・洋食・中華料理）	a b c	レポート 発表評価表 調理実習及び記録

11	第6章 衣生活をつくる	10	教科書 DVD (ザ・トータルコスト) 刺し子キット	・衣服素材について理解し、表示の見方や家庭での洗濯・保管方法などについて学ぶ。 ・衣服購入から処分までの流れを学習し、ファストファッションについて事例を挙げながら、商品選択の際に心がけることを考える。 ・被服制作実習 (刺し子)	a b c	ワークシート 被服実習及び記録
12	第7章 住生活をつくる	10	教科書 DVD (見つけよう マイルーム)	・自分の日常生活を振り返り、その生活行為と生活時間のつながりや住まいの機能について理解する。 ・家族の生活行為と住空間とのかかわり、生活行為や動作に必要な広さ、動線などについて理解する。 ・住んでいる人の暮らしを平面図から読みとり、望ましい間取りを考えることのできる能力を養う。 ・演習 (一人暮らしのシミュレーション)	a b c	定期考査 ワークシート レポート
1 2 3	第8章 経済生活をつくる	8	教科書 動画 (明るい未来へ TRY、タイムスリップ ティーチー)	・家計の収支を理解し、ライフイベントや生活のリスクなどに備えた、経済計画と管理について学習する。 ・保険や金融商品の特徴を知り、資産形成の考え方を学ぶことにより、経済計画の重要性について理解する。 ・「契約」について学ぶ。 ・消費行動における意思決定のプロセスや、生活情報の活用について学ぶ。 ・多様な販売方法や、問題商法の種類と対処法について学習する。 ・多様化している支払い方法や多重債務の予防と対処について学習する。 ・私たちの生活と環境問題との深いのかかわりに気づき、自らの行動や選択を環境に配慮したものに変えることができるようにする。	a b c	ワークシート 定期考査

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 学期ごとに、使用したワークシートやレポートをまとめて提出してもらいます。
- ・ ワークシートには授業の内容も記録して、定期考査対策に活用できるようにします。
- ・ 成績に占める評価の割合が高いため、締め切りを守って必ず提出するようにしてください。

8 担当者からの一言

「家庭基礎」は、高校卒業後、自立した大人になるために必要なことを身につけていく科目です。自立した生活を送るために今の自分に何が必要かを考え学習したり、これから起こる様々な生活課題にどう対処していけばいいかを体験的に身につけたりしていきます。

自分の進路を選択し、なるべく早く準備することが求められる2年生のこの時期、これからの自分の進む道や自分らしい生き方について真剣に考えることはとても大切なことです。卒業後の自分を思い描きながら、その実現に向けて一人ひとりが目的意識をもって楽しく取り組んでいける授業にしたいと思っています。

したがって、授業では、自分の夢や今後の生活を、どれだけ現実的にイメージできるかが重要になってきます。自分の考えをしっかりともち、レポートなどの課題にはそのイメージが相手に伝わるようにわかりやすく表現してください。

(担当：堀田 佳織)